

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201146		
法人名	社会福祉法人鶴亀会		
事業所名	グループホーム龍ヶ岳		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町大道158番地		
自己評価作成日	令和3年10月10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市中央区水前寺3-15-1-1001
訪問調査日	令和3年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の方の、その人らしい尊厳なる姿を大切にしています。くつろげる場所の提供と、混乱せずに済む様な心遣いをしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人理念を、掘り下げて、「その人らしく」をホームの理念として利用者のしたい、行きたいなどの気持ちに寄り添った今を大切に支援に取り組んでいる。外出希望があればできるだけその日のうちに叶えることを基本とし、居室入り口のカーテンとドアは利用者の状況によって使い方を変えたり、車いす利用者がスムーズに洗面ができるよう洗面台の蛇口に水受けを取り付けたりと、一人ひとりの要望や状況に応じた対応・工夫が行われている。コロナ禍で面会の自粛を余儀無くされている家族に、利用者の近況とホームでの暮らしの写真を添えた手紙を届ける取組みは、多くの家族から感謝されている。また、利用者の「ここは退屈」との声を拾い、ローテーションで担当職員を決めて定期的にそれぞれが考えたレクリエーションを実施するなど、利用者の声にすぐに対応するとともに、職員の得意とする能力を尊重し、アイデアや提案などを積極的に取り入れて運営に反映し、利用者の暮らしを支えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を定期的に確認し、常に念頭に置いて対応検討時や実践など、普段の業務に反映していけるよう努めている。	法人全体の理念を掘り下げて話し合い、「その人らしく」をホームの理念として共有し、具体的なケアに繋げている。利用者が今何を望んでいるかを知り、一人ひとりその人らしくあるために個別に丁寧な支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にドライブなどの計画を入れ、馴染みの場所での散策や、祭り文化祭等の行事ごとにも施設に積極的に招き、地域とのつながりを継続できるよう努めている。	毎年恒例の地域の秋祭りでは、獅子舞や子供神輿の訪問があったり、地域の運動会に参加したりする他、施設の夏祭りなどの行事に多くの地域住民の参加を得るなど地域との交流が行われていたが、昨年度からはコロナ禍のため中止となっている。職員は地区の清掃活動に参加したり、法人職員と共に、カーブミラー磨きをする等地域の一員としての活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の成果を地域の方々に伝える場合は、運営推進委員会や、利用者のご家族等から以外に、現在のところないが、他施設での研修等を踏まえた繋がり等、検討の必要性は感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と参加メンバーからの意見、質問、要望を受け、双方向的な会議を実施するとともに、その意見を活かした検討を行い、必要時は実践に取り入れている。	運営推進会議は今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら書面にしたり会議場所を変えて開催している。会議ではホームの取り組みや課題をメンバーに投げ掛け、双方向的会議となる様努めている。委員の助言から、リビングの掲示物の改善につながったケースもある。	会議を資料配布に代える際には、委員が意見・提案を出しやすい工夫があるとさらに良いと思われる。また、現在は家族委員が不在であるが、例えば資料配布し書面での参加で意見・提案を求めるなど、家族委員の参加が得られるための検討も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会以外では、市の担当者と連絡を取ることは少ない。制度解釈に関する質問を聞いてもらう程度。	介護認定更新手続きなど郵送で行っており、直接市役所に出向き担当者と話す機会はほとんどないが、運営推進会議への参加は毎回あり、ホームの実情や取り組みを伝え相談できる関係が構築できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して施設委員会の活用を通して、研修やチェックを定期的に行い、常に身体拘束とならないよう各スタッフの知識向上や、意識づけを行った上での各種対応の検討を実施、安全面に配慮した自由な暮らしを目指している。	ホームで3か月に一度開催している「身体拘束廃止会議」では日々の支援を振り返り、話し合って拘束のない支援に取り組んでいる。利用者は戸外に出たい時に出来るように、職員は声掛け、見守り、一緒に散歩するなど状況に合わせた支援をしている。法人の委員会では定期的に、10項目のチェック表を使い拘束がないことを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング、委員会の設置や研修など、虐待防止法の遵守に向けた取り組みを行っている。また、防犯目的でカメラ導入など、積極的に検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当制度について、事業での所研修はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の意向をくみ取り、時間をかけ出来るだけ丁寧に説明している。重度化や看取り対応、利用料金等については特に詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動から思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。また必要ならご家族様宅に訪問し、要望を聞くようにしている。ホーム玄関には意見箱を設置し、ご家族様の意見を引き出すよう努めている。	意見箱の設置はあるが利用は無く、意見は直接職員や管理者に伝えられることが多い。面会制限の中で家族の不安を考慮して、利用者の日常を写真に収め手紙と共に家族に送り、家族の安心につなげている。利用者の「ここは退屈」との言葉から、毎週日曜の午後、ローテーションで担当を決めてレクリエーションを行い、利用者の笑顔を引き出すなど、利用者の要望にすぐ対応することを大事にしている。	コロナ収束後においても、日常の写真と手紙の送付を継続されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームでの定例研修会(月1回)の他、随時話し合う機会を設けている。必要な場合は施設長との個別面談等の機会も設けている。	毎月開かれているホームの研修会では職員の些細な気づきや提案などを出して、みんなで検討して運営に反映している。管理者は時間外でも職員の仕事、プライベートのことで電話やメールでの相談に乗るなど職員が話しやすい職場環境づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を積極的に行っている。労働環境も、本人の意向を踏まえ、資質を活かせるよう検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行い、外部の研修にも職員各自の習熟度の応じて参加し、研修報告の場も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の連絡会があり、交流会、スタッフ研修を実施して質の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、必ず本人と面談し、心身の状態を確認の上、本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れてもらえるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めていることを理解し、ホームとしてどのような対応できるのかを事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の意向を時間をかけて聞き取り、ホームとご本人様の状況に合わせた対応の検討を行い、必要時は他のサービスを含めた話し合いも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協力しながら和やかな生活ができるよう、場面作りや声掛けをしている。ご利用者からは「お互い様」という言葉も聞かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の思いにも寄り添いながら、日々の暮らしの情報共有に努め、利用者様と一緒に支えるために支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の行きつけの商店や美容院にでかけ、知人との会話ができるよう、でかける機会を作っている。希望者は少なくなっているが、今後も取り組みは継続していく。	隣接する法人施設に馴染みの人を訪問したり、招いたりして、交流を支援している。また、年賀状の作成や電話で話す機会を設けるなど馴染みの関係継続に取り組んでいる。ホーム敷地内に「お墓」があり、毎年近くの寺の住職による盆の法要が行われており、お参りする利用者の心のよりどころとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や他の方との相性を職員相互で情報共有し、関わり合いの持てる場所(パブリック)を整備し、ご利用者同士が交流できるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用終了後も、ご家族様からの相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、常にご本人に合わせた対応を念頭に置いたケアの組み立てを行っている。困難な場合はご家族様も含めた検討を行い、理解も得ている。	特に入浴時や夜間帯は、1対1で利用者の本音が出やすい時間であり、利用者によっては筆談で話を聞いたり、タイミングを図りながら思いの把握に努めている。利用者の希望や意向は記録に残して職員全員が共有し検討して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始から、ご本人様、ご家族様からの聞き取りを行っている。また、その情報をすぐに記録するノートを設けており、些細なことでも記録するように周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、出来ないことより出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様には日々の関わりあいの中で意見、要望を聞き、介護計画に反映されるようにしている。半年毎に、アセスメントを含め職員全体で意見交換を行っている。	介護計画は本人の思いを一番大切に考えて作成している。利用者の言葉そのままに思いを記録したケア日誌や、情報ノートによる家族の要望などと、職員の気付き・意見をもとに計画を作成している。少なくとも半年ごと、変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間軸を基にしたケア記録様式の見直しを行い、それぞれのスタッフが気付いたその時に記録し、他のスタッフも確認しやすいように工夫している。その記録を基に経過観察や計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じた通院や送迎等、必要な支援を柔軟に行っている。また、協力病院との連携にて訪問診療等も取り入れ、ご利用者の選択肢も増えてきている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が安心して地域で暮らしを続けられるよう、区長、消防団指揮隊長と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関と連携を保っている。提携病院の訪問診療を基本としながら、ご家族様、ご本人様の希望や状況により、必要な受診や通院を行っている。	本人、家族の了解のもと、協力医療機関から4週に1回の定期的な訪問診療を受けている。眼科や歯科などの専門医への受診は家族と協力をして支援している。コロナ禍の利用者発熱時には協力医療機関の医師の的確な指導・助言をうけ、適切に対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経過記録とは別に医療面専用の個別カルテを作成し必要な情報をカルテにまとめ、医療的観点の情報共有、観察がしやすいよう工夫している。ご利用者に変化があった場合は、都度の看護師相談を基本とし、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人様に関する支援情報を医療機関に提供し、3日に1度は職員が見舞うようにしている。また、ご家族様とも、ご本人様の状況を情報を共有し、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに対応する方針を定め、入居時も意思確認を行っている。	入居時に重度化や終末期に関してのホームの方針を説明し、意思確認を行っている。重度化して医療行為が必要となったときに再度家族と話し合いホームに出来ることを十分に説明して方針を決めている。協力医療機関への転院ケースが多い状況である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを掲示又はファイリングし、常に確認やイメージができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火器の使い方等、定期的に行っている。また、施設防災マニュアルをファイリングし、いつでも確認できるようにしている。施設での防災訓練や、緊急時の備蓄管理や電源確保等も行っている。	法人全体で出火場所等変えながら防災訓練を年2回実施しており、法人全体での協力体制ができている。今年5月の訓練では、土砂災害を想定して利用者の避難訓練を行った。4年前には地区の消防団・地域の消防署・家族・運営推進委員なども参加してホームでの火災を想定した訓練を行っており、多くの助言を得て課題も見つけ改善に繋げている。	再度、地域と共に行う防災訓練を希望したいと考えており、コロナ禍が早く収束して実行できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助、介助時にも、まずはご本人様の気持ちを大切に考え、さりげないケアをこころがけたり、自己決定がしやすい言葉の掛け方をするように努めている。	利用者の呼称は入居時に本人と相談して決めている。膝を曲げ上体を低くして、方言を交えた優しいトーンで利用者には話しかけている職員の姿を見ることが出来た。居室入り口のカーテンとドアは、一人ひとりに合わせた使い方・対応をしており、トイレのカーテンは長めに調節するなどプライバシーを考えた工夫が見えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた、ご本人様が答えやすく、選びやすいオープン、クローズな問いかけ方を意識した働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や思いを把握しつつ、環境整備や物品の購入を行い、自由に過ごせる空間を意識した環境作りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームにて美容の日を設けたり、居室洗面台の使用にて、その人らしさを保てるような手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの味付けや、食べやすい大きさ、硬さ、盛り付け量など、個々に合わせた細やかな対応を心掛け、少しでも食事を楽しんでいただけよう努めている。また、季節に応じた行事食や、誕生食など、ご利用者の刺激や喜びとなるよう努めている。	献立は職員2人と利用者が料理写真を見ながら決め、全職員がローテーションで調理している。職員の家で採れた食材も調理され季節感のある食事となっている。春の山菜御膳、花見弁当、夏のソーメン、冬の鍋の日など、利用者の楽しみとなっている。デザートやおやつまで職員による手作りで、楽しみな美味しい食事の提供に努めている。	現在、職員は入居者と同じ食事を食べておらず、できれば1人でも職員が同じ食事を味わい、味・大きさ・硬さ・量などを確認することで、よりおいしい食べやすい食事に繋がるものと思われる。また、コロナ禍収束後は、利用者と一緒に調理できるようになることも期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量のチェックを行い、医師の指示による定期的な血液検査等にて健康状態の把握も行っている。また、食欲のない場合には、パンやお菓子、栄養補助ムースやジュース等を提供し、栄養バランスの確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕のイソジンによるうがいを毎日行っている。また、洗浄剤による義歯の消毒や、ブラッシング等、本人様の能力に応じた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートや排泄の記録、医師相談による便秘薬等適切な用法、用量にてスムーズな排泄を促し、時間や回数の把握を行い、必要時の誘導ポータブルの使用、リハビリパンツ、パッドなど本人様の状況に合わせた支援をしている。	日中はトイレでの排泄を基本にしている。排泄チェックシートから一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、誘導をしてトイレでの排泄を支援している。自分で出来ることはしてもらい、今ある機能が継続できるように一人ひとりの状態に即した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状況などを、見直し、自然排便や服薬介助によるスムーズな排泄を促すよう個別に工夫している。また、24時間での排便タイミングの把握や、便秘薬の服用時間等も記録し、必要時の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	あらかじめ個々の要望に合わせた曜日を定め、それを基本に希望等を踏まえた柔軟な組み換えを行うよう努めている。また、身体状況に合わせた入浴具や浴槽の検討も行い、無理なく快適に入浴できるように対応している。	入浴は週2回を基本としているが、毎日でも入りたい日に入浴できる。機械浴の導入で利用者は負担を軽くして無理なく全員浴槽につかることが出来る。職員は入浴時間に利用者の想いや希望を聞き楽しいひと時となる様心掛けている。入浴拒否時には担当者を変えたり翌日に変更するなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	培ってこられた生活習慣を大切に、無理な覚醒促し等は控えた対応を心掛けている。また、個々の体調に合わせた離床や臥床時間を検討しながら、無理なく安心して過ごされるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を把握できるように、個々の情報を介護経過記録と合わせて確認できるよう工夫している。また、個人カルテにも効能等をファイリングし内服薬に関する理解と観察を高めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かせるよう、お願いできるような仕事を頼み、職員から感謝の気持ちを伝えて、本人様のやる気に結び付けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の時間を設けたり、希望があれば付き添いながら外周を散策するなど、外気に触れる時間を大切にしている。また、ドライブ等の時間も作り、個々の馴染みの場所へ出掛ける等の援助も行っている。	コロナ禍ではあるが、外出希望があるときは「出来る限り直ぐに」を基本に個別に対応している。ふるさと訪問の帰りにショッピング、お盆のお墓参りなど希望に沿った支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて金銭管理をすることになっているご利用者でも、外出時に預かっている現金を手渡し、自分で買い物や支払いができるように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様には毎月、ハガキで近況報告を行っている。また、携帯電話を使われる方の、使い方の援助や、希望がある場合は施設電話にて、ご家族様との会話も楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフの大声でのやり取り、雑談を避ける。また、感知センサーを子機式に変え、大きな音が鳴らなくてもスタッフが対応できるよう変更。臭気にも配慮し芳香剤や消臭剤、密閉性の良い汚物入れ等を設置。生花担当を決め、季節の草花で常に彩るように配慮した空間作りに努めている。	ホーム内は床もきれいに磨かれ掃除が行き届き明るく清潔感がある。食卓には、職員宅の庭に咲いていたコスモスやヒマワリが生けられ、利用者の心を和ませている。リビングでは車いすからソファーに移動してテレビを見たり、利用者同士でおしゃべりをしたり思い思いに寛いでいる穏やかな表情の利用者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブル、椅子やテレビの配置などを工夫し、個々の過ごし方や動線を考慮した環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者個々の馴染みの物や、生活スタイルに合わせた物品の整理を行い、ご家族様への相談や、購入の検討など、柔軟な対応を心掛けている。	居室入り口にはカーテンが掛けられプライバシーに配慮している。ベッドの周りには、好きな本や使い慣れた小物などを置き、その人らしい部屋となる様心掛けている。車いす利用者がスムーズに洗面が出来るよう、洗面台の蛇口に水受けを取り付けるなど、できるだけ快適に過ごせるための工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者にとって分かりやすい表示や方法を考え、出来るだけ利用者本人様の力が活かせる工夫を追及している。また、本人様の能力でやれることを増やせるよう、手すりの増設や家具の設置など、環境整備にも努めている。		